

緑化だより

No.208 令和6年9月号



ホトギス

- 季節の花 (くくらみ(ニラ))
- 水生昆虫の話 (ヒラタドロムシ)
- 小さな世界こけ(コゴメゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

くみら(ニラ)

「伎波都久(きはつく)の 岡の茎萑(くみら) 我れ摘(つ)めど

籠(こ)にも満(み)たなふ 背(せ)なと摘(つ)まされ

作者不詳 万葉集 卷14-3444

これを訳しますと

(伎波都久(きはつく)の岡に茎萑(くみら)をせっせと摘みに来たけれど、一人で摘んでもちっとも籠に一杯にならないわ。それじゃ、あなたのいい人と一緒に摘みなさいよ。)

野で働く女たちの仕事の辛さを恋の思いに転じて詠われています。

伎波都久(きはつく)の岡は、奈良時代には常陸の国の真壁郡と呼ばれ、現在の茨城県桜川市の地域です

くみら(茎萑)は和名では萑(にら)です。古い時代は「ミラ」、「ククミラ」と呼ばれて、ククミラのククは茎で 萑の茎が伸びたものを言います。

ニラはユリ科(ヒガンバナ科とする説もあります)ネギ属の多年草です。8月～9月に花茎の先に小さな星を散らしたようなたくさんの白い花を咲かせます。

花弁は3枚、苞が3枚あるので、6弁の花に見えます。草全体に独特な臭気があり、カミラ(香ニラ)と言われ、名の通り強い匂いがあり、料理や薬用に利用されます。

中国原産で モンゴル、マレーシア、ベトナムまで古くから栽培されています。日本に伝わったのは9～10世紀ごろと言われています。畑や家庭菜園で栽培していますが道ばたや野原に野生のものが沢山生えています。ニラの濃い緑色の葉にはビタミン類が豊富で抗酸化作用や免疫機能を維持する栄養素があります。又、黒い種子は萑子きゅうしといひ漢方では頻尿の薬として用います。

全草に独特な匂いがありますが、精力が付き体にはとてもいい食材です。(上村)



ニラの花

水生生物の話

ヒラタドロムシ

水のきれいさを調べるために、環境省により指定されている全国各地に生息していて分類が容易な生物学的な水質判定の対象になっている29種類の「指標生物」のうち、水質階級Ⅱの生物の中でも個性的で、まるで古代の三葉虫のような姿をしている水生生物「ヒラタドロムシ」の幼虫をご紹介します。

ヒラタドロムシ科の幼虫は、主に石の多い河川の流水中に生息しています。マルヒラタドロムシ亜科、ヒゲナガヒラタドロムシ亜科、ヒラタドロムシ亜科、チビヒラタドロムシ亜科と分かれていて、体の形や鰓の位置、枚数、形状、背面の形状などにそれぞれ特徴があります。写真の個体は、四角い円状で体の横にある板(側葉片)が10枚あり、縁の毛並みがきれいにそろっているので、山地溪流に生息するヒメヒラタドロムシの幼虫でしょう。

ヒラタドロムシの幼虫は、体長が3～10mmで水中のリンゴ大以上の大きさの石にくっついて

石を拾って、その表面をよく見てみると、丸い小判のようなヒラタドロムシがひっついてのを見つかることができます。石の表面をゆっくりと移動しながら、石に生えている付着藻類を刈り取るようにして食べています。

見つけたヒラタドロムシを、石からそとはがして指に乗せると、じわじわと動く姿を観察することができますよ。

羽化時期は6月から8月で、5月ごろに上陸して川岸の石の下にもぐりこんで蛹になり、脱皮して成虫になります。成虫は体長4~6mm程度の黒い甲虫で、ハムシっぽい少し四角い感じの姿をしています。成虫になると水辺の近くの草や石の影などで生活していますので、そのあたりを探すと小さな黒い虫を見つけることができるかもしれません。

産卵期になると、雌は水面から突き出た石に集まり、平瀬の水中にもぐって石の裏に集団で産卵するそうです。まだその様子を確認したことがないので、いつか見てみたいものです。成虫の写真は撮影できていないので、気になる方はネット検索してみてください。ちなみに、興味のある方は「ホシザキグリーン財団」さんのホームページの中の、「ホシザキ野生生物研究所」のページに、ヒラタドロムシの詳しい図鑑が掲載されています。写真も充実していてとても分かりやすいので、是非チェックしてみてください。(西村)



ヒラタドロムシ

小さな世界 こけ

コゴメゴケ

市街地の公園の木や街路樹は、日当たりや風の通りもよく、排気ガスの影響もあり、コケの生育には適さないように思われますが、そのような都会の環境でも育つコケをアーバンモスと言います。アーバンモスはアスファルト舗装のすき間にホソウリゴケ、側溝にギンゴケ、樹木の幹にサヤゴケなどが見られます。

今回はそんな仲間のコゴメゴケを観察してみましょう。

コゴメゴケは樹幹に生育するコケで、雌雄同株。濃い緑色でマット状に樹幹を覆っています。

樹幹を這った茎からは5mmほどの短い枝が密に出ます。

葉は0.5mmくらいの長卵形で、葉先には透明な尖があります。乾燥すると葉は茎に接し、透明尖が目立ち白い糸くずのように見えます。

10月頃からたくさんの孢子体をつけますが、蒴柄は約3mmと短く、孢子のうも0.5mmと小さいため肉眼では見つけにくいかもしれません。ルーペで見ると、小さなつやのある黄緑色の米粒ほどの孢子のうが確認できます。この孢子のうが和名の由来です。

粉米あるいは小米とは、精米の過程で出る崩れた米で、昔はよく米に混じていましたが、現在、市販されている米にはありません。

植物名にはコゴメツギやコゴメガヤツリなどがあります。(山根)



樹幹に生育しているコゴメゴケ



乾燥したときのコゴメゴケ



コゴメゴケの孢子体

研修会のご案内

- | | |
|--|---|
| ○ 9月 6日(金) 『染料植物と薬草』
～いよ～!染料役者～
染料植物と薬草について学び、草木染め体験をします
※要予約(残りわずか)、材料費 1,200円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島国際大学生涯学習自然園
前園長・薬学博士
神田 博史 |
| ○ 9月 14日(土) 『秋の七草と自然探勝』
秋の七草について学び、植物を観察します
※自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：緑花文化士
横山 直江 |
| ○ 9月 22日(日) 『9月の自然探勝』
散策路を歩きながら植物を観察します
※自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：環境カウンセラー
自然観察指導員 和田 秀次 |
| ○ 9月 28日(土) 『秋のきのこ入門観察会』
講師と一緒に散策路を歩き、きのこの解説を聞きます
※要予約(キャンセル待ち)、無料 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章 |
| ○ 10月 5日(土) 『10月の自然探勝』
散策路を歩きながら植物を観察します
※自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：森林インストラクター
野田 圭一 |
| ○ 10月 6日(日) 『秋のきのこ教室』
園内で自由にきのこを採集し、午後から学習室に持ち寄り、鑑定します。
※自由参加、無料、採集用カゴ持参 | 10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章 |

♪☆お知らせ・ご案内 ☆♪

第8回ひろしま遊学の森

四季の移ろい写真コンテスト

写真募集中 締切り:11月30日(土)

詳細はHP,チラシでご確認ください。

《工事規制について》

- ・下水処理場工事のため、12月まで園内の一部で通行規制がかかる場合があります。
- ・レストハウス耐震改修その他工事のため、9月中旬～10月頃まで営業日の変更があります。

詳細はHPなどでご確認ください。

◎展示会

場所:レストハウス

ボード展示・ガラスケース展示は耐震改修工事期間中 中止します。